

——お二人がインパルスのスタッフになった経緯を教えてください。  
**巽** 同志社国際高校でフットボールを始めた時は選手としてプレーしていましたが、高校2年時に腰の負傷で選手の道を諦め、3年生の時は新入生コーチをしていました。同志社大ではトレーナーと兼務する形で3年時は副務・広報、4年時は主務・渉外としてチームの運営の大半を担当していました。

ちょうど就職活動をしていた時に、大学のOBを通じてインパルスにお誘いをいただきました。他の会社にも内定をいただいていたのですが、声をかけてくださったインパルスには自分が役に立てることがあると考えました。大学時代は日本一とは縁遠いチームだったので、日本一になってみたいという思いもインパルスの一員になった大きな動機の一つでした。

**木下** 私は星陵高校時代にQBをしていました。しかし、関西学院大学時代は負傷続きで、なかなかチームに貢献できない状況が続いており、3年生になる時にアナライジングスタッフになることを決断しました。社会人になったらクラブチームなどで選手として復帰するという道もありましたが、仕事も頑張りたいと思っ

——巽さんは長くチームに携わっていますが、インパルスが変化してきた部分と変わらない部分をどう見られていますか？

**巽** 私が在籍した四半世紀でXリーグのフットボールも、インパルスも変化してきました。しかし、仕事とフットボールを両立する点とはもちろん、『成果が出るまでやりきる』『全員フットボールで日本一を目指す』など、根幹の部分は変わっていないと思います。

インパルスは新しいことに慎重だという印象を持っている方もおられると思います。確かにどんなにいいと思われることでも、ノリでやってみようということにはなりません。パナソニックには『衆知を集める』という価値観があるのですが、一つひとつの取り組み

**理念 MISSION**  
 アメリカンフットボールを通じて人びとに感動や活力を提供すると共に、本活動を通じて一流の社会人を育成・輩出し社会の発展に貢献する

Contribute to social development by providing people excitement and vitality through American Football, nurturing and raising social leader through this.

**方針 POLICY**  
**社員選手 Employee Player**  
 日本一達成に向け、決めたことは執念をもってやりきる  
 To become a champion, do what you have decided with obsession  
**セルフコントロールを徹底し、仕事とフットボールで一流を目指す**  
 Have self-control in order to make balance in both work and football  
**主体的に考案し、異文化と融合したチームの発展に貢献する**  
 Think and act to take leadership for the team's development

**Professional Player**  
 本職にだけ、自己の全ての能力を最大限に発揮し、チームと協働する努力を怠らぬ  
 In addition to your main job, maximize your own abilities and work cooperatively with the team, without making any effort  
**お互いを尊重し、チームの発展と成長を継続的に目指す**  
 Respect each other and continuously aim for the development and growth of the team in your daily work

**ATTITUDE**  
 誠実な人であり、謙虚な心を持ち、常に向上心を持って努力する  
 Be honest and sincere with a genuine heart, always have a sense of upward mobility and strive for improvement  
**正々堂々と戦い、勝利を収める**  
 Fight fairly and win  
**高い志を持ち、常に挑戦する**  
 Have high aspirations and always challenge yourself  
**諦めず、最後まで戦い抜く**  
 Do not give up and fight to the end  
**仲間を尊重し、チームの発展と成長を継続的に目指す**  
 Respect your teammates and continuously aim for the development and growth of the team in your daily work  
**常に謙虚であり、常に向上心を持って努力する**  
 Always be humble and always have a sense of upward mobility and strive for improvement



ていたので、インパルスでスタッフと仕事の両立に挑戦したいと考えました。

——学生時代と社会人としてのタッフの役割の違いを感じたことは？

**木下** 多くの人が在籍する組織を動かしていくには、大変な努力と時間がかかるということを経験しました。学生時代は対戦相手の分析のみを担当していたので、気づけていませんでしたが、チームが円滑に活動をするためには、練習後や練習のない日にも

に対して、様々な意見を集めて、どんな成果が得られるのか、どんな意味があるのか、何より提案した人間がどこまでやりきりる覚悟を持っているか、ということをとことん突き詰めていき、最後に責任者が意思決定します。ですから、始めるまでは時間がかかりますが、一度始めたならば一気に徹底的に取り組みます。

**木下** 入社2年目にファン獲得活動を任された時に、試合後にファンの皆さんと選手が交流する機会を設けることを提案したことがありました。その時は徹底的に問題点を指摘されて却下されたのですが、『なんでいいことなのに始めさせてくれないんだ』と、当時の私は思っていました。しかし、今思えば、その時の私は

『それが何故いいことなのか』というところまで深く考えられていませんでした。ファンの皆さんと交流することでどんな成果を生み出すことができるのか、もつと言えば、どんな時も同じようにファンの皆さんに交流の場を提供していけるのか、そこにかかるとまで突き詰めて考えることができていませんでした。そういった部分を一つひとつクリアしていかなければ、中途半端な活動になってしまい、結局誰のためにもならないということには、今なら理解できます。

これは、仕事にも通じることだと実感しています。今、私は新しい部署で営業を担当しているのですが、たとえどんなにいい商品やサービスでも、お客様の置かれている状況にマッチしたものでなければ、多角的に考えていかなければ、本当にいいサービスや商品は提供できません。そういう考え方をインパルスで学ばせてもらったと思っています。

**ディレクター 巽 哲夫**  
 同志社大学出身。1998年入社と同時にインパルスに参加しスタッフとして長くチームを支える。2018年から今年4月までXリーグ事業部副部長／企画部部長を務めた。現在はパナソニック株式会社ライフソリューションズ社人事総務部CI強化プロジェクトに所属。企業スポーツの新たな価値の創造に取り組んでいる。2018年U19日本代表GM、2020年日本代表アシスタントCDM。インパルスが活動をサポートする少年フットボールチーム「ジュニアインパルス」では代表を務める。

チームを動かすための準備をしているスタッフの働きがあることを身を持って体験しました。

**巽** 学生時代は主務として多くの決裁権を持っていました。インパルスでは決裁権の範囲は減りましたが、カバーしなければならぬ役割の範囲は広がりました。私がインパルスの一員になった頃は人手が足りなかったこともあって、一人何役もこなさねばならないという状況でした。

**木下** 確かに、しなければならぬことはたくさんありますが、

練習や試合の時にチームが動くためのタイムマネジメントから、遠征の準備、他チームとのやり取りなど、様々なやりとりをしていく中で、大きな組織を動かしていくという体験ができるのは、スタッフの醍醐味でもあります。

**巽** 私は自分で自分の働きで、私以外の誰かが結果を残すことに、この仕事のやりがいを感じています。チームが日本一を勝ち取ったり、選手が活躍してくれたり、自分がそれに貢献できたと感じられることが一番の喜びです。

将来のインパルスの選手を生み出すことです。同時に、子どもたちが社会人になる時に帰って来たいと思うようなインパルスを作っていくかと思うっています。そのためには若い世代のマネージャーに、私たちが大切にしてきたこと、インパルスが大切にしている価値観を伝えていきたいと思っています。

——お二人が今後、インパルスで実現したいことを教えてください。  
**巽** 私は今、代表を務めているジュニアインパルスの選手から、



**マネージャー 木下和洋**  
 関西学院大学出身。2017年入社と同時にスタッフとしてインパルスに参加。昨年までは主務としてチームの活動を支えた。今季はマネージャーとして若い世代のスタッフ育成とサポートに取り組む。仕事ではパナソニックLSエンジニアリング株式会社で営業を担当。2020年日本代表マネージャー

**木下** それは私も強く感じています。ゴールが示されていて、やり方を任せてもらえるということ、しかも、とても恵まれていると思います。自分の技量が試されるといふ点では、緊急で解決しなければならぬことや、無理難題に立ち向かわなければならぬ時の方がスイッチが入ります(笑)。昨年、日本代表にマネージャーとして参加した時も、初めての海外遠征でしたがインパルスで普段から考えて一つひとつの事柄にあたっていったので、初めての環境でも対応に困るということはありませんでした。

——お二人が今後、インパルスで実現したいことを教えてください。  
**巽** 私は今、代表を務めているジュニアインパルスの選手から、

将来のインパルスの選手を生み出すことです。同時に、子どもたちが社会人になる時に帰って来たいと思うようなインパルスを作っていくかと思うっています。そのためには若い世代のマネージャーに、私たちが大切にしてきたこと、インパルスが大切にしている価値観を伝えていきたいと思っています。

I'm IMPULSE  
 私はインパルス

アメリカンフットボールは専門的な役割を持った人々が集まって勝利を目指すスポーツだ。チームが組織として機能するためには、それぞれが自らの仕事に誇りと責任を持って取り組むことが不可欠である。社会人Xリーグの強豪・パナソニックインパルスを支える人々は、どんな意欲を持ってチームに携わっているのか。今回はチーム在籍24年目の巽哲夫ディレクターと、5年目の木下和洋マネージャーが、スタッフとしてのやりがいとインパルスが大切にしている価値観について語り合った。

困難に直面すると思いますが、そういった時に経験を生かしてフォロワーである存在でありたいと思っています。